

『みんなのスポーツ』5月号（No.493）から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の5月号は「**スポーツライフをデザインする**」の特集号です。

私の視点にて今月号で気づいたこと・参考になる点を3点記載します。



1 「スポーツをひらく」兵庫県相生市佐平氏

見て見ぬふりだった佐平さんが、「何かお手伝いできることはないですか」と声をかけるようになった事例です。障がい者スポーツ指導員の資格を取得しようと思ったのは、スキルアップはもちろん、学ぶことで認知症予防になる（笑）と考えられたとの事。行事と講習会が重なり一歩踏み出ない状況から、コロナ禍になり行事は中止となり、この機会を逃さずに受講を決意。

取得して感じたのはもっと早く取っておけばよかった。以前は街中で障がいのある方を見かけても見て見ぬふりでしたが、声をかけることができるようになった。普段の生活でも何かお手伝いできることはないですかと意識が働くようになったとの事。

2 理論2：「スポーツのまちづくり」と「豊かなスポーツライフ」の幸せな関係

「スポーツによるまちづくり」が人々の豊かなスポーツライフや地域社会にどのように連動するか、連動させるべきかを示すとともに、地域、地域住民の主体性も重要性について提案されています。提案者は京都先端科学大学教授東原文郎氏。

具体的な事例として、北海道北見市常呂町のスポーツのまちづくりです。地域住民の豊かなスポーツライフの醸成に結びつくには、どのような条件が求められているか考えてみましょう。

常呂町は人口約4000人の過疎自治体にも関わらず、オリンピックはロコ・ソラーレを含め14人。カーリングの聖地として広く認知されています。1980年、たまたま北海道がカナダのアルバータ州と姉妹道州になったのがきっかけに、冬の娯楽として常呂町に伝わりました。1989年には国体のデモンストレーション競技として常呂町に建設されたのが現存する国内最大のカーリング場（13年に建て直し）です。通年型になり多くのオリンピック輩出のインキューベーターの機能を果たしている。

画期となるのが、2010年バンクーバー・オリンピックにチーム青森のメンバーで出場した、本橋麻里さんが、郷里常呂町に戻ってきて、ロコ・ソラーレを結成したこと（スポーツインフラの誕生）によって地元住民の間で支援の輪が広がり（社会的ネットワークの拡充）、地元企業からスポンサーが得られるようになることで（事業性の確保）、ロコ・ソラーレの強化につながった。

他の地域にない、常呂町にしかないものは何でしょうか？ 「ナイトリーグ」をはじめとする、住民の生活に組み込まれたカーリング文化だと寄稿者は考えています。ナイトリーグとは、毎年秋口から春先にかけて行われる無差別カーリングのこと、年代、職業、性別の区別なく常呂町に在住・在勤をベースとした30余のチームがレベルにもとづき割り振られ総当たりでしのぎを削るリーグです。シーズンになると平日は19時から3時間4ラウンド、各チームが100ゲーム以上プレーをする。現役元オリンピックも多数含まれ、未来のオリンピックを目指す若者はゲームを楽しみながら自ずと世界レベルの技術と駆け引きを体感し、体得していく仕組みができています。

2月の「よこすかスポーツフォーラム2023」で室伏広治スポーツ庁長官が講演の中で、3月のR4年

度全国スポーツ推進委員リーダー養成講習会の中で「常呂町」事例は紹介されました、横須賀にもDena ベイスターズや横浜Fマリノスなどがあります。海や山、歴史文化もあります。これらを活用し地域住民が主体となってスポーツ徹底的に楽しむ実践を積み重ね、仲間が増え、それが地域文化になるようにできることから取り組んでいきたいと思っています。

3. わがまちの健康・体力づくり 佐賀県伊万里市

「スポーツによる健康的で活気あるまちづくりを目指して」として伊万里鍋島焼きとして栄えた伊万里市。協議会は13地区から39名が集まり、ペタンク大会、アジャンタ大会、ソフトバレーボール大会、ラジオ体操会などの企画運営や指導力向上のために実技研修課も行っている。また、各地区では地区の方を対象としたニュースポーツ研修や運動会も行っている。

健康・体力づくりのため、普及種目である、ペタンクやモルックを中心に普及推進に努めている。一過性に終わるのではなく、市民の皆さんが自分のライフスタイルに合わせて、自主的・継続的にスポーツができるように、体力や年齢に応じたスポーツ活動ができるように、年に数回、各地区(町)にニュースポーツ教室を提供している。

対象者や年代種目も違うため、推進委員同士で指導方法を話し合い、情報を共有し、知識を深めている。

今月号では3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことからできることから始めて（行動）みませんか？

* **本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがある**ように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合とこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど感ずると思います。是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上

<おまけ>

